

[概要]

大都市圏郊外地域の住宅世帯について、居住移動の面などから居住者特性が明らかになる中で、地方都市においては高い持ち家率や高い自家用車保有率といった特徴を踏まえたうえで居住者特性を明らかにした研究は少なく、それらの特徴が大都市圏郊外住宅世帯との差異を生み出している可能性がある。本研究では、地方都市である富山県富山市の中心市街地縁辺部に位置する山室荒屋新町を事例に、3つの仮説から居住者特性について明らかにすることを目的に調査を行った。その結果、三世代同居への移行というライフステージの変化や、高い持ち家率に基づく戸建て住宅取得、高い自家用車保有率による居住地選択、子どもの就学環境や実家との近接性を重視した居住地選択といった地方都市の特徴を反映した居住者特性が明らかになった。よって、地方都市の特徴は大都市圏郊外の居住世帯特性と地方都市縁辺部の居住世帯特性の差異を生み出している要因であると考えられ、地方都市縁辺部の居住世帯特性について明らかにするうえでは、地方都市の特徴を加味したうえでの説明が必要であると考えられる。

キーワード：地方都市郊外地域，居住者特性，居住地移動，居住地選択